

マキノ病院ニュース

新年度を迎えるにあたって

院長 西村 彰一

昨年度は新型コロナウイルスに全世界が翻弄され、生活様式は一変しました。ウイルスは人に感染するだけでなく、間接的に社会構造そのものを蝕み、世界中の人々が苦しんだ一年となりました。多くの医療機関で混乱をきたし、診療体制の変革が求められました。当院においても当初は発熱患者様の診療に混乱をきたすこともありましたが、新型コロナウイルスに対する院内での抗原検査・PCR検査体制が整備され、感染対策のノウハウも蓄積されたため、以前よりはスムーズな診療の提供ができるようになりました。

今年度は何とか感染がコントロールされることを願うばかりですが、この切り札としてワクチン接種が期待されます。今後、一般住民の皆様へのワクチンの接種が始まります。ファイザー社のイスラエルにおけるデータでは95%の発症予防効果を示されており、大いに効果が期待できそうです。しかし、日本人における有効性や効果の持続期間は未だ不明です。また、今のところ変異ウイルスに対してもワクチンは一定の効果がありそうですが、今後出現するであろう新たな変異ウイルスに対する効果は未知です。従ってワクチン接種後も、「新しい生活様式」を実践しながら新型コロナウイルスへの警戒を続ける必要があると思えます。尚、新型コロナウイルスに対する

感染対策はインフルエンザに対しても非常に有効でした。昨シーズンは全国的にもインフルエンザ患者数は激減し、驚くべきことに当院においてインフルエンザ陽性者はゼロでした。この点からも、マスク着用、手指衛生などの感染対策は今後も引き続き行っていく必要があります。病院において新型コロナウイルス対策は今年度も重点項目にはなりますが、良質な医療提供を行うためには、その他にもすべき事が多々あります。今年度も引き続き医療から介護、病院医療から在宅医療を継ぎ目なく対応し、地域の皆様が安心できる環境を更に整えていきたいと思っております。尚、一昨年より開始した訪問診療ですが、少しずつではありますが患者数も増えてきております。昨年度は新型コロナ

対策のため病院では面会制限があるため、なれ親しんだ自宅で家族に見守られながらの最期を選択される患者様が増加し、10名弱の患者様の在宅見取りを行いました。訪問診療を受けたと考えているが当院での相談窓口が不明とのご意見を頂くことが御座います。外科・総合診療科の外來にてご相談を受けたまわりますので宜しくお願いいたします。

今後も医療情勢の変化に対して柔軟に対応し、地域の方々から信頼され選ばれる病院となるように職員一同努力いたしますので、今後ともご指導・鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

診療科のご案内
内科・外科・小児科・整形外科・皮膚科・神経内科・総合診療科
肛門外科・泌尿器科・リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科
【救急指定・労災指定】【人間ドック・各種健診】

— 診療受付時間 —
平日 8:30 ~ 12:00 16:40 ~ 19:00 土曜日 8:30 ~ 12:00
滋賀県高島市マキノ町新保 1097 TEL 0740-27-0099
ホームページ <http://www.makino-hosp.or.jp>

ドクターコーナー



CHOSHINKI

皆さんは「脂肪肝」という病名をご存じでしょうか。検診等で「脂肪肝」と言われた方もおられるかもしれませんが。脂肪肝とは文字どおり肝臓に脂肪がたまる病気です。食べ過ぎや運動不足のために摂取したカロリーが消費するカロリーより

多くなつた場合にそれを中性脂肪に変換して肝臓に蓄えることで脂肪肝になります。脂肪肝の人は増加しており、全国で1000万人以上いると考えられています。脂肪肝の原因としてアルコールがよく知られてい

『脂肪肝』について

肝臓内科 飯沼 昌二

ますが、アルコールを飲まない人でも脂肪肝になることがあります。今回はこのアルコールを多量に飲まない人に生じる脂肪肝についてお話しします。この脂肪肝は「非アルコール性脂肪性肝疾患、nonalcoholic fat

も含まれます。これは肥満、糖尿病、脂質異常症、高血圧など、メタボリックシンドロームの要素がもたになります。NAFLDは8〜9割の方は肝硬変や肝臓に進行せず脂肪肝のまま、病気は進行しま

せん「これを非アルコール性脂肪肝、nonalcoholic fatty liver 略してNAFLと呼びます」。しかしNAFLDの1〜2割の方は徐々に進行し、肝硬変や肝臓になることがあるといわれています。この徐々に進行する脂肪肝を「非アルコール性脂肪性肝疾患、nonalcoholic steatohepatitis、略してNASH」といいます。最近、肝硬変や肝臓がんの原因としてNASHの割合が増えてきています。脂肪肝は腹部超音波検査、CT検査で脂肪肝の所見があり、他の肝疾患の原因が無いことで診断できますが、NASHの正確な診断には肝臓の組織を一部採取して、顕微鏡で検査しなければなりません。しかし、これは患者さんには負担

が大きく、入院して行わなければならないので、すべての患者さんに行うのは不可能です。このため血液検査のいくつかの項目を使ってNASHの可能性の高い患者さんを見つける指標が考案されおり、NASHの可能性の高い患者さんに肝生検を行い診断します。NAFLDはメタボリックシンドロームの症状が肝臓にあらわれたものと考えられます。従って肝硬変にならないNAFLDのかたでも正常の人より心筋梗塞や脳梗塞などの動脈硬化性の病気を起こしやすい状態と認識し治療する必要があります。残念ながらNAFLDを直接治療するお薬はまだありません。従って治療の原則は、食事療法、(裏面に続く)